

〈 2018年5月26日(土)午前 〉

		A会場：第2会議室	B会場：第3会議室	C会場：第1会議室	D会場：小講堂	E会場：講堂
9:00 10:00		受付				
10:00	1	松平 勇二 国立民族学博物館 ンビラ音楽の図式化と分析	中川 千草 龍谷大学 在外ギニア人たちとEbola —出身地の社会問題との向き合い方—	桐越 仁美 東京外国語大学 ガーナ北西部における農耕民ダガー レのマウンドと歌を用いた水食対策	大谷 琢磨 京都大学 ウガンダ都市部におけるバイクタク シー運転手のセーフティネット構築 —「ステージ(客待ち場所)」の構成と 機能を中心に—	門村 浩 東京立大学 地球変動の中のアフリカ —2017/18年 シーズンの顕著な気 象・水災イベント—
10:15	2	相原 進 京都大学 エチオピア国立劇場における新演目 の制作過程にかんする考察 —舞踊パート内での団員の役割に着 目して—	榎並 ゆかり 龍谷大学 ディアスポラの連帯意識が醸成される 場 —マルセイユにおけるムリッド・イス ラム共同体の事例から—	福田 聖子 日本大学 マラウイにおけるタンジェリン栽培の 導入と普及に関する歴史的背景 —南部州ムンガワ 4村における初 期導入者を事例に—	松原 加奈 京都大学 エチオピアの製造業における従業員 の現状 —革靴製造企業の技能形成に着目し て—	水野 一晴 京都大学 キリマンジャロとケニア山における近 年の水河縮とその自然や社会に与 える影響
10:30	3	鈴木 裕之 国士館大学 「マンデ文学」の系譜 —文化人類学者の見たアフリカ文学 —	児玉 由佳 アジア経済研究所 エチオピア女性の沿岸諸国への労働 移動 —その動機とプロセス—	藤岡 悠一郎 九州大学 南アフリカにおけるマルラの商品化 と資源利用	荒木 健成 立命館大学 生計活動としてのキャンブル —ナイジェリア・ラゴス州における数字 宝くじを事例に—	福井 啓之 京都大学 アフリカ漁民と気候変動 —カメルーン北部ロゴネ川氾濫原の 動態—
10:45	4	ウスビ サコ 京都精華大学 サハラ交易主要都市都市の世界文化 遺産データベース構築と保存・修復の 実態 その4 —ジェンネの建築活動の近代化と無 形文化の役割—	佐藤 千鶴子 日本貿易振興機構アジア経済研究所 南アフリカへのコンゴ人の混在移動 —複合的な移動目的と移動経路—	坂田 有弥 サム・モロ・アフリカ農業研究所 ジンバブエの農村におけるタバコ契約 農業とその影響 —東マシヨナランド州マロンデラ地区 の事例より—	藍澤 淑雄 秋田大学 タンザニアにおける零細漁業者の地 域とのつながり —ルワンガサ地域を事例に—	池野 旬 京都大学 タンザニアにおける地方都市の拡大と 水問題 —キリマンジャロ州ムワンガ町の事例 から—
11:00	5	松井 祥 京都大学 モザンビーク島における「食」と「住」を めぐる社会関係	坂梨 健太 龍谷大学 地方における在日アフリカ人の労働	柴田 梨恵子 レディング大学 ウガンダ小規模農民の農業イノベ ーション過程に関する考察	坂井 真紀子 東京外国語大学 カメルーン西部州における野菜販売 網とバイクタクシー —中国製バイクの山間部のアクセス へのインパクトを考察する—	上田 元 一橋大学 ケニア・マチャコス市における水セク ター改革後の上水供給
11:15	6	影 宇潔 国立民族学博物館/京都大学 狩猟採集民バカに見られる景観情報 の共有 —集団採集活動を事例に—	井田 暁子 独立行政法人 国際協力機構 現代の病院に生きる植民地時代の 記憶 —セネガルの「原住民病院」を形成す る歴史社会的文脈—	堀 光順 京都大学 ウガンダ南西部のチガ社会における 斜面地農耕と若年世帯による耕作地 の確保	フォーラム 「個の利益と共の役割 —タンザニア農村の事例から—」 伊谷 樹一・勝俣 昌也 京都大学・麻布大学 家畜が病気がかかったときの対応 黒崎 龍恒・岡村 鉄兵 高崎経済大学・名古屋大学 「壊れたバッテリー」がもたらす悲劇 近藤 史 弘前大学 植林が林業に育つとき、育たないとき	フォーラム 「なぜルワンダ難民は帰還を拒むの か」 杉本 明子 慶應義塾大学 難民の「帰還」をめぐる政治と安全保 障 —アフリカにおける紛争体験国の事例 から— 村尾 るみこ 立教大学 「帰還」と「庇護国での定住」の境界 米川 正子 立教大学 ルワンダ難民の帰還に関する神話と 現実
11:30	7	藤井 千晶 京都大学 精霊の存在意義 —東アフリカ沿岸部の事例から—	近藤 有希子 日本学術振興会/同志社大学 「書く」という出来事 —ルワンダにおける植民地的近代の 暴力への拒否と黙然さについて—	中澤 芽衣 京都大学 ウガンダ南部の都市近郊農村におけ る女性世帯のバナナ栽培と生計活動		
11:45	8	高村 美也子 南山大学 タンザニア・ボンディ社会における埋 葬地の選択	川田 順造 神奈川大学 アフリカにおける歴史表象の諸形式			
12:15 13:15		昼食・評議員会(第1会議室)				

〈 2018年5月26日(土)午後 〉

		A会場：第2会議室	B会場：第3会議室	C会場：第1会議室	D会場：小講堂	E会場：講堂
13:30	9	Kinyua Laban Kithinji 上智大学 Japan Aid Regime and the New Devolved Governments in Kenya	大場 麻代 帝京大学 ケニアの小学校におけるインクルーシブ教育の取り組み	戸田 美佳子 上智大学 カメルーンにおけるピース—狩猟採集民社会、牧畜社会、酋長制社会の比較—	阿久津 昌三 信州大学 ガーナの独立記念式典の変容過程—特に、Ghana@50とGhana@60の事例を中心として—	フォーラム 「反アパルトヘイト運動の記憶と記録—解放闘争と国際連帯—」 牧野 久美子 趣旨説明
13:45	10	KARUSIGARIRA IAN 東京外国語大学 THE SYSTEMIC CORRUPTION IN POLICE DEPARTMENTS IN UGANDA: BEYOND THE NEW SOCIOLOGICAL INSTITUTIONALISM	大石 高典・飯塚 宣子 東京外国語大学・京都大学 カメルーンのパカ・ビグミーにおける在来知識と学校教育—ローカルNGOとの対話から—	池谷 和信 国立民族学博物館 アフリカのピースとグローバルヒストリー	島田周平 名古屋外国語大学 再興ピアラ独立運動の余波	津山 直子 アフリカ日本協議会 北欧の反アパルトヘイト運動と政府開発援助(ODA) 牧野 久美子 アジア経済研究所 日本の反アパルトヘイト運動の事例
14:00	11	KIM, Eun Kyung Hankuk University of Foreign Studies Economic Signals of Ethnicity and Voting in Africa: Political Salience of Agricultural Subsectors in the Case of Kenya	番掛 沙弥香 東京外国語大学 タンザニアにおける「多言語教育(Multilingual Education)の行方—スワヒリ語は「第二言語」か?—	田中 利和 東北大学 地下足袋をともにつくる—エチオピアにおける新たな労働履物文化の創造に関する実践的地域研究—	中尾 沙季子 東京大学 アフリカ独立党(PAI)と民族解放運動(MLN) —「国境」を越えた反植民地主義ネットワークの広がりと独立国家誕生に伴うその周縁化(1957-1960年)—	フォーラム 「文学・運動・メディア—ブレザンス・アフリケース研究2—」
14:15	12	Alexis Lyrasほか 筑波大学 Applied Olympism and Sustainable Development: Theory and Practice in the African context	澤村 信英・アンドリアニアイナ 大阪大学 マダガスカル農村部における初等・中等教育の現状と課題—就学から就業への移行に着目して—	星野 佐和 京都大学 イスラームにおける音楽的実践と人々の経験—セネガルのスーフイズムを事例に—	矢澤 達宏 上智大学 あるブラジル黒人運動家にとってのアフリカ—1960~70年代におけるアブディアス・ド・ナシメントの黒人解放思想—	佐久間 寛 東京外国語大学 創始者アリュウ・ジョブと黒人学生組織 中村 隆之 早稲田大学 20世紀の黒人詩人ダヴィッド・ジョブにおける「現前するアフリカ」
14:30	13	Joseph Ibrahim Muriuki 東京農業大学 Choice of a Marketing Strategy and its Effects on Farmers' Profits: A Case of Basmati 370 Rice at Mwea Irrigation Scheme, Kenya	黒田 友貴 愛媛大学/静岡大学 マラウイにおけるSTEM人材の自己認識に関する研究—汎用的能力の養成に着目して—	盛 恵子 国立民族学博物館 カメルーン、バムンにおけるイスラームの多極化とそれに伴うスルタンの権威の後退	古澤 輝由 ほか 北海道大学/PICO factory Japan ほか マラウイ共和国ローカルテレビ局と協働した子ども向け科学教育番組の制作	村田 はるせ ジェノサイドを書く—コードジボワール作家ヴェロニク・タジョの『イマナの影』から考える— 小川 了 「ネグリチユード、あれはもともとわたしのアイデアなのよ」 —ポーレット・ナルダルと『黒人世界評論』—
14:45	14	Nico DE WET 立命館大学 Sanpoyoshi, CSR and SDGs: A business strategy for Japanese companies in Africa	小川 未空 大阪大学 地域住民による中等学校の設立とその公共性—ケニア西部の事例から—	森 洋明 天理大学 日本の新宗教によるアフリカ進出—天理教の事例より—	斎藤 文彦 龍谷大学 南アフリカにおける貧者のエネルギーアクセス実現—iShack プロジェクトから考える—	
15:00	(移動・空き時間)					
15:15	ポスターコア (ホール)					
16:15	(移動・空き時間)					
16:30	総会・研究奨励賞授賞式 (講堂)					
17:45	(移動・空き時間)					
18:00	懇親会 (生協工学部食堂)					
20:00						

〈 2018年5月27日(日)午前 〉

		A会場：第2会議室	B会場：第3会議室	C会場：第1会議室	D会場：小講堂	E会場：講堂
8:30 9:00		受付				
9:00	15	川北 安奈 京都大学 タンザニア西部におけるキノの行動と利用環境の選択	古本 真 日本学術振興会/大阪大学 スワヒリ語マウンドゥチ方言のコピュラの強調形 njō について —背景意識としての分析—	佐藤 康也 大阪大学 森の樹木に関する知識と個人差—エチオピア西部・マジャンギルにおける「樹種同定テスト」の試み—	藤山 真由美 神戸大学 コートジボワール西部ドゥエク県・ギグロ県における第1次内戦後の土地を巡る紛争・保身 —土地「所有権」に関する先住者と移住者の認識の相違に着目して—	フォーラム 「サハラ以南アフリカにおけるサニテーション研究の現状と課題」 代表者：山内 太郎・中尾 世治
9:15	16	佐藤 宏樹 京都大学 マダガスカル産大型種子樹木に対するキツネザルによる種子散布の量的効果	米田 信子・初田 漢 大阪大学 スワヒリ語ザンギバル方言における移動動詞としての pandisha と shusha—季節風による「上下」の関係—	藤本 武 富山大学 エチオピア西部の山地農耕民マロにおけるヤムイモの栽培利用 —ギニアヤムを中心に—	大石 晃史 国立情報学研究所 コンゴ民主共和国における武装勢力の分裂統合	鍋島 孝子 北海道大学 社会科学から見たブルキナファソ SATREPS総括 伊藤 竜生 北海道大学 技術開発と価値連鎖サニテーション
9:30	17	本郷 峻 京都大学 ここまでわかったマンダリルの社会と生態	梶 茂樹 京都産業大学 ニョロ語のタブー表現	荒木 美奈子 お茶の水女子大学 タンザニア農村におけるマイクロ水力発電に向けた協働 —ドイツ NGO の支援に着目して—	片山 夏紀 東京大学/日本学術振興会 赦すこと、赦し合うこと —ルワンダ・ジェノサイド後ガチャチャ裁判の賠償を中心に—	中尾 世治 総合地球環境学研究所 ブルキナファソにおけるサニテーション改善の歴史と現状
9:45	18	五百部 裕 相山女学園大学 雪長類における肉食行動の進化	品川 大輔 東京外国語大学 ウル語 (Bantu E622D) の否定標示	足達 太郎 東京農業大学 トモロコシ害虫ツマジロクサヨウのアフリカ大陸への侵入と被害	松波 康男 東京外国語大学 南スーダンの紛争解決に対するIGAD構成国の関与	清水 貴夫・中尾 世治 広島大学・総合地球環境学研究所 サハラ以南アフリカの人工処理業者の社会的経済的役割の解明に向けた予備的考察 —ブルキナファソの事例より— NYAMBE Sikopo・山内 太郎 北海道大学 Using photographs to tell the story of sanitation and health in peri-urban Lusaka, Zambia 総合討論
10:00	19	橋本 千絵 京都大学 ウガンダ・カリンズ森林におけるテンバングー2集団の出会いについて	中川 裕 東京外国語大学 カラハリ狩猟採集民の言語における飲食動詞の類型論的特徴	田村 卓也 総合研究大学院大学/日本学術振興会 非専業漁業者たちの漁撈活動—ケニア共和国ワニ村における漁撈と観光—	武内 進一 東京外国語大学/アジア経済研究所 1990年代以降の土地法改革はアフリカに何をたらしたか	
10:15	20	島田 将吾 帝京科学大学 マハレのテンバングーの道具使用行動の発達と性差	大野 仁美 麗澤大学 カラハリ・コエ語派における姿勢動詞の文法化	友久 保彦 一橋大学 ガーナ地方都市における土地問題の標榜 —ヴォルタ川開発ポンド地域を事例に—	味志 優 東京大学 タンザニアの「ブルドーザー」? マグワリ政権期における反汚職政策—その実績の検証及び他国への示唆—	フォーラム 「女子割礼・女性性器切除 (FC・FGM/C) とローカル社会の多様性」
10:30	21	徳山 奈帆子・古市 剛史 総合研究大学院大学・京都大学 ボノボの父系社会におけるメス間の連合形成パターンとその機能	小森 淳子 大阪大学 バンバラ語の動詞の「他動性」に関する考察 —他動詞と自動詞を分けるもの—	孫 暁剛 京都大学 ケニア山西麓の農業地域における土地利用と水環境の変化	五野 日路子 東京農業大学 マラウイにおける農業投入財補助金政策の現状 —南部地域における村落実態調査 (2014 年度、2015 年度) の結果から—	戸田 真紀子 京都女子大学 国際社会のルールとジェンダー—SDGsとFGM— 宮地 歌織 佐賀大学 ケニア・グンバにおける「女子割礼」の医療化と反FGM活動について
10:45	22	古市 剛史 ほか 京都大学 ほか 母子関係を介したボノボの繁殖戦略	牧野 友香 大阪大学/日本学術振興会 ランバ語の TA 形態素 a- についての考察	原 将也 立正大学 ザンビア北西部の多民族農村における移入史と土地利用	近藤 葉月 名古屋大学 ガーナ北部農村部における「革命」の意味 —行為者の視点から—	林 愛美 大阪府立大学 FGM廃絶運動とローカルな人びととの関わり —ケニアのマサイ地域におけるFGMの代償性に関する調査から—
11:00	23	岩田 拓夫 立命館大学 アフリカにおけるコメディの新展開—ゴンドワナ共和国を事例として—	箕浦 信勝 東京外国語大学 マダガスカル手話の節末助動詞	大山 修一 京都大学 ザンビア北部ベンバ社会の慣習地におけるチーフ主導の土地登記	波佐間 逸博 長崎大学 北東ウガンダ牧畜民のエスニックシティンシップとシットクシティンシップの接合 —動物のレジスタンスに注目して—	『女子割礼・女性性器切除 (FC・FGM/C)』に付与される新たな意味—ケニア牧畜社会における「FGM禁止法」への反応—
11:15	24	三津島 一樹 京都大学 トーゴにおける電子テクノロジーと技術的実践—中古パソコン修理工への参与観察から—	Seunghun J. Lee・Cédric Patin 国際基督教大学・University of Lille Phonology of question intonation in two African languages	林 玲子 国立社会保険・人口問題研究所 アフリカの保健・社会福祉人材～センサステータスでどこまでわかるか	福田 浩久 マンチェスター大学 ポスト工業社会に生きる他者たちの (不)関わり —映像「Love Thy Neighbor」—	モハメド アブディン 学宮院大学 スーダンにおけるFGM/C正当化の論理とその変容 —伝統から宗教へ— コメンテーター 富永 智津子
11:30	25	Celestin Nzeyinmana 筑波大学 障害者のソーシャル・インクルージョンにおけるパラ・スポーツの役割—ルワンダの事例に着目して—	河内 一博 ほか 防衛大学校 ほか Causative event descriptions in Kupsapiny (Southern Nilotic; Uganda)	岡野 英之 立命館大学 政府の政策とローカルな対策を架橋する—シエラレオネ・エボラ危機における人脈ネットワーク—	「アフリカ子ども」フォーラム 「持続可能な開発と子ども」 亀井 伸孝 愛知県立大学 趣旨説明/ 子どもの遊び文化と社会の持続可能性 —カメルーンの狩猟採集民バカの事例—	フォーラム 「国家・NGO・草の根社会—エチオピアとウガンダの事例の検討—」 宮脇 幸生 大阪府立大学 趣旨説明 利根川 佳子 早稲田大学 市民社会に関する法律の影響とNGOの対応と認識 —エチオピアを事例として—
11:45	26	善積 実希 京都大学/日本学術振興会 ケニアにおけるローカルな助産実践—脳性麻痺児に対する食事介助のようすから—	杉本 喜美子 甲南大学 サブサハラ・アフリカにおける資本流入の現状	中田 北斗 ほか 北海道大学 ほか The trend of elevated blood lead levels in mining area, Kabwe, Zambia	秋山 裕之 京都府立大学 社会開発が狩猟採集民の子どもたちにもたらしたものは何か —セントラル・カラハリ・サン人の事例—	真城 百華 上智大学 国家とNGO —エチオピア・ティグライの政府系 NGO (GONGO) の事例— 宮脇 幸生 CBO (Community-Based Organization) と女性のエンパワメント —エチオピア西部農牧民ホルの「女性組合」事例から—
12:00	27	高村 伸吾 京都大学 コンゴ周縁地域において勃興する境界人の論理	井手 上和代 神戸大学 モーリシャスの工業化における地場資本の役割 —一次産品輸出依存からの脱却—	SEERA GEORGINA 京都大学 Body size perceptions and obesity in women living in urban Uganda	田 暁深 筑波大学 牧畜民の子どもと野生動物のかかわり —ケニア・マサイランドの観光開発と野生動物保全を背景に—	
12:15	28	飯田 卓 国立民族学博物館 地理的束縛からの脱出—アフリカ人とアフリカニストのための博物館をめざして—	伊藤 紀子 農林水産政策研究所 商業的農業開発と制度—アフリカ灌漑事業区と東南アジア稲作農村の事例—	KALENGA NGOY JOHN 法政大学 A comparative analysis of workplace injuries and safety in the copper mines of Katanga, 1965-2010	竹ノ下 祐二 中部学院大学 生物多様性保全は「生業」たりうるのか? —ガボン、ムカラバドの国立公園におけるゴリラの保護と子どもの暮らし— コメンテーター 嘉田 由紀子	
12:30	昼食					
13:30						

〈 2018年5月27日(日)午後 〉

13:30
16:00

公開講演会(講堂)

ポスター発表(ホール・コアタイム: 5月26日(土) 15:15-16:15)

<p>P1 阪本 公美子 宇都宮大学</p> <p>故リトゥング氏のタンザニア南東部における研究への貢献</p>	<p>P2 吉田 早悠里 南山大学</p> <p>絵葉書に描かれた20世紀初頭エチオピア—F.J.ビーバーの絵葉書コレクションを通して—</p>	<p>P3 森口 岳 学習院大学</p> <p>王国と共和国(2) —ウガンダの1986年以前と以後の地方政治体制について—</p>	<p>P4 宮本 律子 ほか 秋田大学</p> <p>秋田大学国際資源学部のフィールドワークの試み —学部生をアフリカに連れていく—</p>	<p>P5 縄田 浩志・中川 彩美 秋田大学</p> <p>日本との比較からみえるスウェーデン共和国の教育制度の特徴 —学制変更への動きに注目して—</p>
<p>P6 平山 草太 京都大学</p> <p>カメルーン・ヤウンデにおけるイスラーム教育改革</p>	<p>P7 池見 真由 札幌国際大学</p> <p>セネガルの水供給改善における国家政策と地域住民の実践</p>	<p>P8 松浦 直毅 ほか 静岡県立大学 ほか</p> <p>保全と開発の統合に向けた住民組織のエンパワメント —コンゴ民主共和国における水上輸送支援プロジェクトの実践—</p>	<p>P9 山口 亮太・松浦 直毅 京都大学・静岡県立大学</p> <p>熱帯森林資源の商品化と流通 —コンゴ民主共和国における水上輸送支援プロジェクトの実践—</p>	<p>P10 和崎 春日 中部大学</p> <p>中国の人・もの・コト大量流入時代のアフリカ都市文化の伝統と継承 —アジア—アフリカ大規模交流時代のカメルーン最大都市ドアラの街並み動態—</p>
<p>P11 八塚 春名 日本大学</p> <p>タンザニアにおける狩猟採集活動と観光とのかわりに関する地域的差異</p>	<p>P12 アブデウン ナセル 筑波大学</p> <p>アフリカにおける“オリンピック・アジェンダ2020”の展開 —ビジョン・目標・現状—</p>	<p>P13 ハギス ディヴィナ 筑波大学</p> <p>スポーツ道具からみるケニアの物質文化</p>	<p>P14 シェマーマボコ ディディア 筑波大学</p> <p>スポーツを介した若者の社会的統合 —ルワンダ・難民キャンプにおけるスポーツ開発プログラムの事例から—</p>	<p>P15 大平 和希子 東京大学</p> <p>産油地域で伝統的権威が果たせる役割の考察 —ウガンダ西部ブニョロ地域を事例に—</p>
<p>P16 杉山 祐子 弘前大学</p> <p>農村における小規模な現金獲得活動の現代的諸相</p>	<p>P17 山平 泰子 京都大学</p> <p>ルワンダにおける洋裁技術訓練と訓練生らの変化</p>	<p>P18 古謝 麻耶子 沖縄県立芸術大学/日本学術振興会</p> <p>シヨビの木琴テンピラの製作技術とその継承</p>	<p>P19 萩野 泉・山内 太郎 北海道大学</p> <p>中央アフリカ熱帯雨林狩猟採集民Bakaの子ども食物獲得 —16日間の狩猟キャンプ観察—</p>	<p>P20 長谷川 純子・山内 太郎 北海道医療大学・北海道大学</p> <p>ザンビア共和国における2歳未満児の低栄養状態スクリーニング方法の開発</p>
<p>P21 林 耕次 ほか 総合地球環境学研究所 ほか</p> <p>狩猟採集民の排泄行動 —カメルーン、バカ・ビグミーの個体追跡による時間・空間分析から—</p>	<p>P22 箱山 富美子 明治学院大学</p> <p>「コミュニティ主導による総合的衛生プログラム(CLTSS)」 —ブルキナファソ中央東部地方における農民の反応—</p>	<p>P23 安岡 宏和 京都大学</p> <p>在来知と生態学的手法の統合による革新的な森林資源マネジメントの共創</p>	<p>P24 大橋 岳 中部大学</p> <p>リベリアの里山にくらすチンパンジーの生態と保全</p>	<p>P25 藤田 知弘・山科 千里 国立環境研究所・筑波大学</p> <p>見かけの競争は生じているのか? —熱帯林拡大過程における種子捕食者による負の影響の検証—</p>
<p>P26 山科 千里・藤田 知弘 筑波大学・国立環境研究所</p> <p>定期的な伐採は森林をどのように変えるか? —マラウィ北部ミオンボ林の種組成、種・機能的多様性からみる人為擾乱の影響—</p>	<p>P27 大谷 侑也 京都大学</p> <p>アフリカ熱帯高山における近年の水河・水環境の変化</p>	<p>P28 古澤 礼太 中部大学</p> <p>ガーナ共和国が漁師の延縄漁具 —アクラ首都圏オス地区の事例—</p>		